

## 民間懇話会 活力分科会 概要（主な意見）

●開催日時 平成30年2月14日（水） 14時00分～16時00分

## ●主なご意見

## 【働く場】

- ・柔軟な働き方の実現に向けて、これまでの働き方に対する固定観念を取り払うような働きかけを国（県）が進めることで、より働きやすい環境に近づき、地域活動についても参加しやすくなるのではないか。
- ・介護する者や女性は、終日就労できないことがネックとなり、技術や能力があっても活かしきれていない現状がある。例えば、日中2時間だけ、仕事から離れることが可能であれば、残りの時間は支障なく就労できる場合もあり、柔軟な勤務が可能になるとよい。

## 【活力（産業）】

- ・岐阜市にICができることを契機に、工業を集約する視点も必要ではないか。
- ・開通する東海環状道自動車道の沿線自治体の中から、岐阜市が企業に選ばれるためには、何がセールスポイントなのかを考える必要がある。
- ・新産業の創出の視点に災害への対応力を入れ、災害に強い都市を目指すとうよい。
- ・地元をよく知り、幅広い知識経験がある管理職経験者などを経営人材として、活用するのがよいと考える。地元企業への再就職を促すことも重要であり、民間を中心に人材流動化、斡旋するモデルを作る必要がある。
- ・人材確保できないのであれば、外国人実習生を積極的に受け入れることも必要。
- ・IT投資は生産性向上に不可欠。ITを使いこなせる人材教育に向け、自治体、金融機関、大学が協力する必要がある。
- ・単に事業を承継するだけでなく、経営人材を強化し、新たな投資や採用を通じて競争力を高めることが重要。
- ・チャレンジ精神のある従業員への承継や若い起業家の育成が必要であり、実践的な育成支援が求められる。
- ・伝統工業の支援は、材料仕入先などの関連企業も含めた視点が必要。

## 【活力（農林水産業）】

- ・農業が衰退しないよう、農業関係者だけでなく、地域で知恵を出し合うことが重要。
- ・農地の集積・集約など、工夫することで儲かる農業にすることが可能。
- ・ITを活用して、点在する田を効率的に管理するシステムが既に稼働しており、必ずしも1つの土地に集約しなくても対応は可能で、このような視点も必要。
- ・都市農業を進める上では、固定資産税のあり方などが課題として考えられる。
- ・農家は行政やJAと連携し、高付加価値の商品作りなど、儲かる農業を実現していくことが重要。
- ・次代の担い手育成には、若い頃から農業に関する教育が必要。また、担い手不足の対応には、外国人の活用も考えられる。

## 【観光・交流】

- ・伝統工芸である和傘や水うちわなど、体験型観光とマッチさせることで、岐阜市の伝統として、未来へ残していくことが重要。
- ・スポーツイベントによる集客を滞在型観光の1つとして考え、観戦に来た人が、岐阜市の良さを感じ、再訪につながるとよい。スポーツコンテンツの活用を民間と行政が連携して行えるとよい。
- ・インバウンドによる外国人旅行者数も重要であるが、旅行消費額という視点も必要。
- ・インバウンドの取り込みに向け、国別の戦略を考える必要があるのではないか。
- ・長良川おんぱくは、岐阜オリジナルの取組であり、通訳などの受け入れ環境を整えることで、盛り上がるのではないか。
- ・ひとり一人が、岐阜市のPR部隊と思って、岐阜の魅力を知り、PRできるとよい。

## 【活性化】

- ・中心市街地を居住の場として位置づけ、どのような動線で周辺地域と結びつけるのかという視点が重要。
- ・周辺地域でつくられた農産物を中心市街地で販売するような仕組みが必要である。
- ・柳ヶ瀬の店の閉店時間が早いいため、仕事帰りに寄ることが出来る場所になるとよい。
- ・文化的で豊かな生活を送ることができる安全・安心な中心市街地として、魅力づくりを行っていくことが重要。
- ・コンパクトシティを進める上で、中心市街地に商業が必要。
- ・柳ヶ瀬への誘客の一つとして、駅から一定区間のバスについて、乗降自由にするなど、考えてはどうか。
- ・公共交通を充実させ、周辺市町からも人を呼び込むことが必要。
- ・高齢者が安心して行き来できる交通手段を確保する必要がある。
- ・柳ヶ瀬が市民の集まる場所になるとよい。一日遊んで、学べる、市民のための場所となしてほしい。

## 【市民交流・協働】

- ・多世代交流は重要で、地域で守る側と守られる側の場面が入れ替わることもあり、未来ビジョンには、子どもから高齢者まで、世代ごとに求められる役割を示してはどうか。

## 【多文化共生・国際交流】

- ・外国人に対する大人世代の意識改革が必要。働き手を確保していくためにも多文化共生は重要。

## 【防災】

- ・防災は、世代を超えて助け合う考え方があるとよいのではないか。
- ・災害発生時、親が勤務中で、子ども達だけ別の場所に置き去りになる可能性があるため、平時から地域のつながりを強くすることが重要。
- ・災害時の助け合いを円滑にするためには、隣近所との付き合いが重要。
- ・災害が身近に迫っていると感じてもらうため、過去の災害の教訓を伝えることや地域の防災訓練が重要。